

# 病院総力をあげて患者の生命を守る

## 六甲アイランド病院

### 1 地震発生時の対応

地震当日は患者が約200名の他、医師及び看護婦等20数名が勤務していた。地震の激しい揺れのため、スプリンクラー設備のヘッドから水が放出されたが、技術担当職員が直ちに制御弁を閉止したために大事には至らなかった。照明は自家発電の起動により確保できた。

地震発生後に近くの看護婦寮や島外などから医師、看護婦が参集し、17日は医師25名と看護婦100名が地震後の対応に当たった。停電のためコンプレッサーが動かず、手動で人工呼吸を実施した患者も何人かいた。

18日になると対岸にある石油コンビナート地域からガスが漏洩しているとのことで、六甲アイランドの住民に対しても避難勧告が出された。これにより患者も避難する必要が生じ、六甲アイランドの南のカナディアンアカデミー等へ避難した。自力で歩ける患者は徒歩で避難し、自力歩行困難な患者はストレッチャーを利用して避難した。

### 2 海水の淡水化による水の確保

六甲アイランド病院は副院長が透析の専門医で、通常でも43台のベッドを1日3回ずつ患者の透析に使用していた。地震により他の病院で透析ができなくなったことを知った六甲アイランド病院では、患者の受入れが可能であることを、テレビなどのマスコミを利用して市民に知らせた。

しかし、透析には1人1回あたり200ℓ、全体で20トンの水を必要とした。200トンの貯水タンクは破損を免れたが、地震から3日目の19日は50トンしかなかった。このため災害対策本部を通じて自衛隊に水を分けてもらったが、大量に不足していた。

このため、海水を真水に変える「緊急造水車」の導入を決定、島内のフェリー乗り場に設置し、22日から関連業者の協力を得てタンク車により病院に水をピストン搬送した。また、これのみでは使用量に対して不足であるので、水道局の手配によるタンクコンテナ車を併せて利用した。

病院では通常、1日170トンの水を使用するが、節約することで60～70トンの水を確保するという目標を立てて透析を実施した。そのため、1日100人以上の患者を受け入れることができた。

### 3 ヘリコプター等による患者の搬送

消防ヘリコプター等を利用して、大阪方面に1月17日～29日までの間で延べ12名の患者を搬送した。しかし、ヘリコプターの場合は多数の患者を搬送できないので、クルーザーをチャーター

ーし、六甲アイランドから海路で大阪へ患者を運んだ。

#### 4 教訓

- (1) 常時閉鎖式の防火戸が何か所か地震で開かなくなったので、今後検討の余地がある。
- (2) 六甲アイランドには消防出張所がなく、幸いにして火災はなかったが不安であった。
- (3) 自家発電の燃料が切れてから復電するまでの3時間ほどが空白となった。この間手術などに支障が生じた。例えば各事業所の燃料を島内に共同で備蓄するなど検討していく必要がある。
- (4) 六甲アイランドへのアクセスルートが1か所しかないため不安である。